

2007年2月28日

主催 (財) ミズノスポーツ振興会  
(財) ミズノ国際スポーツ交流財団  
共催 (財) 日本体育協会  
(財) 日本オリンピック委員会

## “2006年度 ミズノ スポーツメントール賞” 受賞者決定

(財) ミズノスポーツ振興会及び(財) ミズノ国際スポーツ交流財団では、(財) 日本体育協会、(財) 日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

2月28日、高輪プリンスホテルで2006年度選考委員会を開き、受賞者を以下の通り決定いたしました。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】 (トロフィー、副賞200万円)  
津山 捷泰 氏 (全日本空手道連盟常任理事)

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】 (トロフィー、副賞各50万円)  
作馬 六郎 氏 (王子クラブ代表 私立四天王寺高等学校卓球部コーチ)  
北野 直俊 氏 (熊本県体育協会 サッカー指導員)

【ミズノ スポーツメントール賞】 (トロフィー、副賞各20万円)  
大島 襄 氏 (日本サッカー協会 顧問)  
金浜 良 氏 (株ジャパンビバレッジ レスリングコーチ)  
井川 英福 氏 (日本ソフトボール協会選手強化本部 副本部長)  
岡村 克己 氏 (山口県体育協会 スポーツ少年団認定員 陸上競技上級コーチ)  
松田 保 氏 (滋賀県体育協会 サッカー上級コーチ)  
福田 耕治 氏 (大阪府体育協会 レスリング上級コーチ)  
村上 珠美 氏 (大分県体育協会 体操上級指導員)  
鵜飼 美保 氏 (愛知県体育協会 水泳上級コーチ)

詳細は別記の通りです。

(お問合せ先)

(財) ミズノスポーツ振興会 事務局	内橋	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ 東京 広報課	澤井・木水	TEL. 03 (3233) 7037
ミズノ 大阪 広報課	高橋・大澤	TEL. 06 (6614) 8373

## 記

名 称 : 2006年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び  
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に務めた指導者およびその周辺の  
指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の  
顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和氏 ((財)日本オリンピック委員会会長)  
委員 長 沼 健氏 ((財)日本体育協会副会長)  
" 泉 正文氏 ((財)日本体育協会常務理事)  
" 石川 武氏 ((財)日本体育協会常務理事)  
" 福田 富昭氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)  
" 田中 英寿氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)  
" 水野 正人氏 ((財)ミズノスポーツ振興会会長 ミズノ(株)会長)  
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び  
選考理由 : 津山 捷泰 (つやま かつひろ)氏 67歳  
(全日本空手道連盟常任理事)

高校、大学と空手道を修行し、その後指導を続け、特に京都産業大学では41年間監督を務めている。また、全日本空手道連盟、世界空手連盟においても技術委員長として技術面を統括。国内では特別コーチとして、国際大会では監督として大きな成果を収めている。特に、荒賀知子選手の世界選手権2連覇は偉業。

指導している主な選手・チーム ※指導者として直接指導

※荒賀 知子 2004、2006年世界選手権大会 女子組手53kg級 連覇  
新井 彩可 2006年アジアジュニア&カデット選手権大会 女子60kg超級 優勝  
佐藤 祐香 2006年アジア競技大会 女子60kg級 優勝

作馬 六郎 (さくま ろくろう)氏 67歳  
(王子クラブ代表 私立四天王寺高等学校卓球部コーチ)

長年、王子クラブにて小学生を指導しており、これまで国内大会の優勝者や国際大会メダリストなどを育成してきた。'06年世界選手権大会で銅メダルを獲得した主力選手である福原愛、福岡春菜両選手が、作馬氏開発の「王子サーブ」で何度も苦しい試合をものにし、日本チームの勝利に貢献した。作馬氏の長年の指導実績とサービス技術開発の手腕は高く評価される。

指導している主な選手・チーム ※指導者として直接指導

※武田 明子 1994年全国中学校大会優勝、2001年世界選手権大会 ダブルス3位  
※福岡 春菜 2004年世界大学選手権大会優勝、2006年世界選手権大会 団体3位  
※岡崎 恵子 2001年世界選手権大会 団体3位

北野 直俊 (きたの なおとし) 氏 72歳

(熊本県体育協会 サッカー指導員)

昭和34年以来、キッズ・小学生・中学生を対象に、サッカー指導に約半世紀(47年)もの永きにわたり携わり、現在もなお活躍している。

現在は、本人が設立を唱え、幼稚園児から小学校3年生までの児童を対象とした玉名キッズサッカークラブにおいての活動が中心となっているが、同クラブは、設立13年目、会員60名を擁するクラブであり、同クラブの活動が、小学校4年生から始まる学校部活動へのスムーズな移行に大きな役割を果たすなど、現在の地域と学校の連携による青少年健全育成の先駆的な活動となったことは、同人の指導の功績であるといえる。

また、玉名市サッカー協会設立以来、37年間にわたり協会の役員を任され、郡市協会のリーダーとして活躍するなど、地域競技の普及発展にきめ細かな指導と継続的な事業展開を図り、県サッカー協会と一体となって地域サッカーの定着に成果を上げている。

さらに自身も県シニアチームに加入し、現役としてOBサッカー大会やねんりんピック、スポレク等に積極的に参加している。

大畠 襄 (おおはた のぞむ) 氏 76歳

(日本サッカー協会 顧問)

アジアサッカー連盟医事委員及び国際サッカー連盟スポーツ医学委員を24年間務め、'06年ワールドカップ・ドイツ大会を最後に引退した。日本サッカーのみならず世界のスポーツ医学に多大な功績を残し、FIFA初となる世界のサッカーへの貢献を称えた「認定証」が授与された。

指導している主な選手・チーム

日本代表チーム

金浜 良 (かねはま りょう) 氏 40歳

(株)ジャパンビバレッジ レスリングコーチ

1988年ソウルオリンピックで8位入賞後に引退、ジャパンビバレッジ入社後は、世界選手権大会、オリンピック等のコーチを務め、数多くのトップアスリートを輩出。特に、レスリング女子種目が初めて実施されたアテネオリンピックでは、全4階級でのメダル獲得に貢献。特に、浜口選手の銅メダル獲得は、直接の指導の成果。引き続き、北京オリンピックに向けて強化育成に傾注しており、指導者として高く評価されている。

指導している主な選手・チーム ※指導者として直接指導

伊調 千春	2006年世界選手権大会	女子48kg級	優勝
吉田 沙保里	2006年世界選手権大会	女子55kg級	優勝
伊調 馨	2006年世界選手権大会	女子63kg級	優勝
※浜口 京子	2006年世界選手権大会	女子72kg級	2位

井川 英福（いかわ ひでとみ）氏 62歳

（日本ソフトボール協会選手強化本部 副本部長）

監督として、世界男子ジュニアで優勝1回、アジア男子選手権で優勝2回、世界男子選手権で準優勝1回、世界女子選手権で準優勝1回、アジア競技大会で優勝1回等、日本代表における実績を持ち、これからの活躍も期待される。

指導している主な選手・チーム

女子日本代表チーム 2006年世界選手権大会2位、2006年アジア競技大会 優勝

岡村 克己（おかむら かつみ）氏 70歳

（山口県体育協会 スポーツ少年団認定員 陸上競技上級コーチ）

競技者として、全日本選手権、国民体育大会、国際大会等数多くの大会に参加、これらの輝かしい競技歴を活かし、山口陸上競技協会の強化部長、指導者育成部長に就任するとともに、競技力向上指導者上級コーチとして第一戦の指導的立場に在って、後進の指導育成に努力する一方、長年にわたり数多くの高等学校生徒を全国大会出場選手に育成し、現在は、単位スポーツ少年団であるカツミ陸上教室のコーチとして青少年健全育成および地域スポーツの振興に貢献している。

また、国際スポーツ交流においても、主に小学生を対象に韓国釜山広域市及び中国青島市との交流陸上競技大会を開催、陸上競技技術の向上に多大な功績をあげるとともに、下関市体育協会理事長として1市4町体育協会の合併による組織の充実に努めるなど、地域スポーツ、生涯スポーツの普及・発展・振興に尽力している。

松田 保（まつだ たもつ）氏 58歳

（滋賀県体育協会 サッカー上級コーチ）

昭和46年日本サッカー協会公認コーチングスクールを卒業、昭和54年滋賀インターハイ、昭和56年滋賀国体を経験し、常に全国レベルのチームと選手の育成に尽力した。平成15年には、びわこ成蹊スポーツ大学への赴任を契機に、志賀町（現大津市）のサッカークラブとの連携により BIWAKO SPORTS CLUB の立ち上げに参画するとともに、地元市サッカー協会の技術委員として、小・中・高一貫指導システムの確立を目指し活動している。また、スポーツをコミュニケーション、人材育成の場として捉え、地域での新しいスポーツ文化の創造に取り組み、平成18年には、BIWAKO SPORTS CLUB を総合型地域スポーツクラブとして再編し、「スポーツ大好きな子ども」の育成を図るため、地域の保育園・幼稚園に定期的に指導者を派遣するなど諸活動を展開、同氏も副会長として「0歳から100歳までのスポーツの生活化を図る」をキーワードに、スポーツを通じた地域の活性化に尽力している。

**福田 耕治（ふくだ こうじ）氏 55歳**

**（大阪府体育協会 レスリング上級コーチ）**

同志社香里高等学校レスリング部の顧問として、後進の指導に携わる一方、地域においても茨木市市民体育館で茨木市レスリング教室を主宰している。

同教室では、幼年から成年を対象に自ら指導にあたり、「楽しく」「強く」をモットーに、スポーツの楽しさを原点に、レスリングだけではなく、様々な運動を取り入れながら練習を行うとともに、レスリングの発展と練習生の試合機会を増やすため、西日本中学生大会、国体記念関西少年選手権、茨木市レスリング・フェスティバル等を開催するなど、地域におけるスポーツの振興に寄与しており、これら地域に根ざしたレスリング競技の普及活動により、同教室から全日本選手権の優勝者も輩出されるに至っている。

また、同氏は、茨木市レスリング協会及び大阪府レスリング連盟の理事長としても活躍し、競技の普及、競技力の向上はもとより、地域スポーツ、生涯スポーツの振興に大きく貢献している。

**村上 珠美（むらかみ たまみ）氏 65歳**

**（大分県体育協会 体操上級指導員）**

地域住民の体力向上、健康維持を提唱し、成人のスポーツを続ける場の提供のため、成人向け体操教室を開催、新体操選手だった経験を活かし、器具を使う様々な練習方法を実践し、楽しく、飽きずに長く継続できるような教室運営を行い、今日まで33年間にわたり活動している。体操にこだわらず、ハイキング、ダンス、球技なども取り入れるなど、高齢化の進む地域における地域スポーツの原点といえる存在となっている。

また、自らの向上も怠らず、都市部の指導者との交流や、多種多様な教室を巡回し、最新技術の取得にも努めるとともに、市行政、市民病院職員そして地域の介護職員とタイアップして、介護予防の観点からふるさと讃歌の曲に合わせての筋力トレーニングとストレッチを盛り込んだ「サン・さん体操」を考案、監修をし、介護現場で日常的に高齢者が実施するなど、地域住民に対する健康増進活動を継続にも積極的に取り組んでいる。

**鵜飼 美保（うかい みほ）氏 50歳**

**（愛知県体育協会 水泳上級コーチ）**

昭和56年にシンクロ競技の指導を始めて以来、名古屋市及び愛知県内で指導を続け愛知水泳連盟理事、シンクロ委員長として、愛知県のシンクロ競技の普及と選手の育成に尽力している。

発足当初のシンクロ教室は一般の水泳教室と違い、運営は困難を極めたが、指導を受けていた生徒の保護者からの強い要請を受け、愛知県で初めてのシンクロナイズドスイミングクラブ「ザ・クラブピア・88」を立ち上げ、シンクロナイズドスイミングの楽しさを教え、競技力向上につながる選手の育成にも貢献し、現在に至っている。

現在は、小学生から50代の会員を対象に指導しており、水中エアロビックなども指導に取り入れ、高齢者のグループは市民スポーツ祭にも参加するなどの活動をしている。

その活動の結果、第58回国民体育大会夏季大会シンクロ競技（デュエット）において愛知県チームを優勝させるなど、今日の愛知県シンクロ競技指導の中心的存在となっている。

以上